

風土記の丘の花だより¹⁶⁸

今、そしてこれから見られる植物(2023年1月14日)

暖くなったり、また冷え込んだりとハッキリしない天候です。体調管理が難しいですね。お互い気を付けたいものです。



小早川家のロウバイがやっと見頃になってきました。甘い香りも漂っています。ロウバイは「蠟梅」と書きますが、ウメの仲間ではありません。ロウバイ科ロウバイ属の仲間の木です。花びらが蠟細工みたいに見えるのですが、ウメの花には似ていません。江戸時代に中国から持ち込まれ、庭木として好まれてきました。トイレの近くにも1本ありますが、なぜか余り花は咲きません。



綿毛を2つ紹介します。左はコウヤボウキ、右はオケラです。どちらもキク科の植物で、綿のように見えるのは、キク科植物の種子によく見られる「冠毛・かんもう」と呼ばれる部分です。これがあるので種子は風に乗って遠くへ運ばれ、

分布をひろげるのです。



セリが、それこそ せり出して きました。この様子から「セリ」と名付けられたそうですね。七草は過ぎましたが、春の七草の筆頭です。もちろんセリ科も植物で、パセリ、セロリ、ニンジンなどと同じ仲間です。それで香りがよく、セリ鍋にすると、香りとシャキシャキ感がたまりません。



日当たりのいいところで、もうヒメオドリコソウが咲いています。日陰に生えるオドリコソウとは姿形が似ても似つかぬこの外来の草をなぜヒメオドリコソウとしたのでしょうか。上部の葉も色づくので、群生するとピンクの絨毯のようになります。花はきれいなピンク色で小さく、葉に隠れるように控えめに咲きます。

松下